

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2022年(令和4年)4月1日

会報 第122号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net【カンボジア事務所】#9E2,street432,Sangkat Boeng Tumpum,
Khan Meanchey,Phnom Penh
(855)78-784-808 (855)17-599-707【ホームページ】 [カンボジア支援](#) [検索](#)【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

1年3カ月ぶりに訪問したカンボジアの惨状に目を覆いました

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸恒次

童謡「通りゃんせ」ではありませんが、「行きはよいよい帰りはこわい」旅でした。

コロナが比較的落ち着いているカンボジア、オミクロン株も蔓延していない様子で、昨年11月から入国時の隔離が撤廃されましたので、1月20日〜2月4日、1年3カ月ぶりにカンボジアを訪問してきました。

久しぶりのカンボジア、噂には聞いていましたが、コロナ禍がもたらした惨状に目を覆いました。

これまでのツアーで利用した老舗のホテルは軒並み閉鎖され、良く通った日本食レストランの多くが閉店、街並みもシャッターが下りている店が目立ちました。

やすらかに眠りください
元副理事長の佃井庸八さん逝去

昨年12月25日、元副理事長の佃井庸八さん(群馬県桐生市在住の里親会員)が病気のため逝去された。98歳だった。

12月29日、桐生典礼会館で葬儀が行われ、コロナ禍にもかかわらず50人以上の親族、友人などが参列した。本会から根岸理事長が参列、祭壇に生花を贈った。

佃井さんは2003年、本会がNPO法人として再スタートした頃に会員となり、その人望と豊かな経験が買われて副理事長に就任、根岸理事長を支えてくれた。

特に、会員さんを現地にお連れする「カンボジアふれあいの旅」に副団長として毎年2〜3回参加、会の旗を持ち参加者を引率してくれたあの姿を、一生忘れることがないだろう。

あんなに元気だった佃井さんも、90歳になるとさすがにカンボジア訪問は叶わず、お目にかかる機会がなくなったが、2人の子どもの里親だけは最期まで続けてくれた。

在りし日の
佃井庸八さん(真ん中)

葬儀で挨拶する喪主のご長男と奥様

佃井さんは戦場体験者でもあった。20代、通信兵として南方戦線に駆り出され、インドネシアで終戦を迎えた。その頃の想いで話、特に現地人女性との恋愛話は、今でも脳裏に焼き付いている。佃井さん、やすらかに眠りください。

オンライン情報交換会を毎月開催

本会では、カンボジア在住の日本人や現地スタッフの協力のもと、現地情報をオンライン(Zoom)で紹介する「カンボジア情報交換会」を、毎月第1土曜日(又は第二土曜日)の10時〜12時に開催しています。1月は8日、2月は12日に開催しました。特に2月12日は根岸理事長の帰国報告会を行い、20人が参加しました。

3月は12日(土)、4月は9日(土)の午前10時〜12時に開催予定ですので、皆様奮ってご参加ください。参加・退出は自由ですので、都合良い時間帯にご参加ください。

参加を希望する方は事務局までご連絡ください。事務局から事前に招待メール(IDとパスコード)をお知らせいたします。

スマホやパソコンをお持ちの方なら、どなたでも参加可能です。初心者歓迎、その方法を事務局が伝授します。

オンラインカンボジア情報交換会
写真提供 鈴木 春男 様

定宿だったミトホテルも売り出された



プノンペンの空港は抗原検査

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

例えば 77 年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

里親さんありがとうございます



【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

- ・内訳
子どもへ直接支援する額=12,600円(42%)
年会費(会の運営に回す額)=17,400円(58%)
- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 子どものからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。
(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

Facebook に本会の活動を随時投稿しています

投稿 パンニャ君の カンボジアレポート (プノンペン在住、旅行会社経営)

昨年末にカンボジアへの入国規制がゆるやかになりましたので、日本人の方々も少しずつ戻ってきています。しかし、コロナ前に比べるとまだまだです。

1月30日～31日、根岸理事長をコフコン州とシアヌークビル市にご案内し、海岸で夕食をいただきました。1年3か月ぶりに会えてうれしかったです。



根岸理事長と海岸で夕食

新校舎とともにトイレ棟も完成



トイレ棟贈呈式

昨年12月に新校舎が完成した「チヨロチヨロウボテイサル小学校」(クラチエ州、スヌオル郡、生徒数460人)にトイレ棟が完成、根岸理事長と現地スタッフが参加し、1月27日に贈呈式を行った。井戸に続き、国際ソロプチミスト安城様・大橋緑様(故人)が寄贈してくれました。

同小学校は、昨年12月に完成した新しい教室で新学期を迎えた。この程トイレ棟も完成し、これで生徒たちも安心して学べることだろう。

中村善信さんのCAFÉを訪問



後ろの左が中村さん

1月29日、カンボジア滞在の後半に入る頃、毎号会報に投稿して下さっているプノンペン在住の日本人、中村善信様が経営するCAFÉを訪問、美味しいコーヒーを頂いてきた。KHJの青木さん、三林けい子さんも同行してくれた。CAFÉ内には写真家の中村さんらしく、今までに撮り留めた数々の写真が展示され、日本人も訪れていてアットホームな空間だった。次回プノンペンを訪問の際に必ず寄りた場所になった。

シアン・ブンレン内務省大臣を 表敬訪問

2月1日、カンボジア滞在中の根岸理事長は、昨年12月に小学校校舎の贈呈式を主催してくれたお礼を兼ね、カンボジア政府内務省のシアン・ブンレン大臣閣下を表敬訪問した。大臣閣下は、本会が現地活動を推進するためのアドバイザーとして、指導してくださっている。



シアン・ブンレン閣下ご夫妻と

村の子どもたちに ぬいぐるみを届ける

1月29日、地方の村で暮らす子どもを訪問した折に、日本から持参したぬいぐるみを子どもたちに届けた。ぬいぐるみは、加藤知恵子様(埼玉県在住の里親会員)と、岩橋京子様(奈良県在住の会員)が寄贈してくれたもの。空港から持ち出せる数に限りがあったが、渡航が自由になれば、多くの子どもたちに届けることができるだろう。

村の子どもたちに
ぬいぐるみ



投稿 カンボジアのコーヒー農園の紹介です

中村善信(プノンペン在住、喫茶店経営)

カンボジア北部の州では、コーヒー豆を栽培し出荷しています。コーヒー観光農園もあります。Googleマップで調べてください。Coffee Plantation Resort です。

3年ほど前になりますが、投稿記事でおなじみの青木さんと一緒に、バイクでモンドルキリ州に行きました。朝6時に出発、モンドルキリの中心地センモノロムに着いたのが午後3時40分でした。

1泊30ドルのバンガローに泊まりましたが、敷地内ではコーヒー豆や他の果実が沢山栽培されていました。

その後もう一度訪問し、コーヒー栽培のタネを30個位もらい、タネからの栽培にチャレンジしましたが、残念ながら成功していません。インターネットで、コーヒーのタネからの栽培を勉強しているのですが、成功例が少なく、水やりの問題あるのか、土に問題あるのか分かりません。

朝晩の温度差が高くないと生育しないのかな? 低地では育たないのかな?

詳しくは私のブログ(なかやんのプノンペン滞在記)に取り上げています。ご覧になってください。



↑種からの栽培



↑コーヒー豆

カンボジアの小学校に井戸が3基完成



↑前田知之 様寄贈の井戸



↑国際ソロプチミスト安城様、大橋 緑 様寄贈の井戸



↑樫川富夫 様寄贈の井戸

この程カンボジアの小学校に、大型手押しポンプ式井戸3基が完成した。

完成したのは、前田知之様(神戸市在住)寄贈の「リャサマイサマキー小学校」(コンボンスプー県ボーセッ郡、生徒数=595人)、国際ソロプチミスト安城様、大橋緑様・故人(愛知県安城市)寄贈の「ピートヌー小学校」(コンボンスプー県ボーセッ郡、生徒数=275人)、樫川富夫様(埼玉県桶川市在住の里親会員)寄贈の「サンコムミアンチェイ小学校」(コンボンスプー県ボーセッ郡、生徒数=135人)、の3つの小学校。

1月24日、久方ぶりにカンボジアを訪問した根岸理事長と本会の現地スタッフが3校を訪問、井戸の完成を見届け点検したうえで贈呈式を行い、完成を祝った。

昨年、病気で逝去された大橋緑様が寄贈してくれた井戸の贈呈式では、ネームプレートに花をたむけてご冥福をお祈りした。

井戸の深さは平均して約40メートル、ヒ素などの水質検査を実施しているので、生徒や村民には安心・安全な井戸水を提供している。

ウオッチ カンボジア



1つの教室で2クラスを教える

教師と教室が足りない小学校で1人の先生が、学年が違う2つのクラスを受け持ち、同時に教える授業を拝見した。日本では考えにくい離れ業だが、カンボジアではよくある授業のスタイルとのこと。器用な先生に脱帽。

生徒の向きに注目!

「セブンイレブン」が 次々オープン

日本でおなじみのコンビニ「セブンイレブン」、ようやくカンボジアにも続々進出。昨年の会報で1号店オープンの様子を掲載したが、あれから2号店、3号店がオープンした。東南アジア諸国からの輸入品がメインで、日本からの商品は少なかった。



無料の動物園、 やがて有料に

サーキット場の近くにまだ整備中の動物園があり、無料で入れるとのことで見学した。整備が終れば有料になるとのこと。クジャが羽を広げて歓迎してくれた。トラやクマもいて、子どもたちが楽しめる動物園になるだろう。

「YAMAMOTO サーキット場」を見学



プノンペンの近郊に完成したサーキット場を見学した。日本人が出資してきたサーキットコースを5周して20ドル、スピードも出るので、スリルを楽しみたい方はぜひ。

春節、もはやカンボジアのお正月に



春節

中国の旧正月(春節)は、もはやカンボジアでは正式なお正月になりそう。カンボジアには4月にクメール正月があるが、2月1日〜3日の春節でも多くの商店が休み、祝っていた。これも中国化の一端か。

ミシンの廃材活用



プノンペン市内のCAFÉに行くと、ミシンの廃材を活かしたテーブルがいくつかあった。さすがにリサイクルが得意な国。日本の放置自転車も、カンボジアで新品のように生まれ変わり、売られている。(里子プレゼントの自転車も日本製が多い)

里子へのプレゼントは 随時受け付けています

- コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアへの渡航が難しくなりました。しかし、海外送金は問題なく可能ですので、当面は皆様から送って頂いたプレゼント代金を現地の本会銀行口座に送り、現地スタッフがプレゼントをお届け致します。里子からのお礼状(写真付き)もメールで送ってもらいます。
- 事務局に届いた里子プレゼント(品物)につきましては、カンボジアへの渡航が可能になりましたら、空港から持参させていただきます。暫くお時間を頂きますので、この時期品物を避け、なるべく現金をお送りください。(手紙はメールで、現地に送ります)

現地購入(プレゼント代を振込票にてご送金ください)

・自転車(中古品)	7,500 円
・お米(50キロ入り)	4,500 円
・通学用かばん	3,000 円
・ティシャツ2枚&サンダルセット	2,000 円
・本(絵本2冊・中学生以上は英語辞書1冊)	1,000 円
・お菓子セット(お菓子の詰め合わせ)	1,000 円
・文房具セット(ノート、筆記用具等)	1,000 円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。
※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

里子への教育支援金を 隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、教育里子が通学する小学校(27校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費の中から6回に分け、米ドルに換金して教育支援金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

2月9日～18日にかけて12月と1月分を、現地スタッフが各学校を回り届けた。カンボジアの学校は1月に新学期を迎え、生徒たちは新たな気持ちで学んでいる。



支援金を届けました

Zoomによるオンライン里子訪問も順調に行っており、希望する里親さんが増えてきた。希望される方は事務局に問い合わせを。



授業中もマスクを使用

本校では、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在290人の子どもたちを教育支援している。カンボジアではコロナ・オミクロン株の感染者が急増しているが、1月10日から、概ね全国の小・中・高校が新学期を迎え、授業を開始した。

クメール教育里親基金活動レポート

投稿 M君の思い出(3)

今 紀子(東京都在住、会員)

いてもたってもいられず、私は電話をかけた。

「G神父さんですか。私は夜間中学校で、M君に日本語を教えたコンと申します。M君は、今どうしていらっしゃるのでしょうか。可能ならお会いしたいと思います。」

G氏は、丁寧に答えて下さった。

彼は、日本の大学を卒業した後、祖国カンボジアに戻り、子供達の為に学校建設に生涯を捧げる決心をした。しばらくは祖国にとどまると思うが、日本に帰って来た時は、必ず連絡するようにM君に伝えて下さるということだった。

G氏の葉書を参考にとすると、1994年M君はカンボジアに帰ることができた。G氏も同行したという。

カンボジアに行かれた方なら、一度は訪ねた事があると思うが、「トゥルスレン収容所」というボルボト政権時代の政治犯収容所がある。

その収容所で、M君は犠牲になった人々の写真を一枚ずつ見つめ、両親を探し始めた。M君は、生死不明の両親と三人の妹を探すために、カンボジアにとどまることにした。日本に帰るG氏に、M君はこう言ったという。

「もし一年たってもわたしが日本に帰らなかったら、死んだと思って、この頭髪を骨がわりにして葬式をお願いします」(原文のまま)

M君の頭は、坊主頭だったという。

私が初めてその収容所を訪ねた時、壁にカンボジアの地図があった。その地図は、「頭蓋骨」を並べて作られたものであった。私は唖然とした。日本では死んだ人を凌辱することは、許されない行為である。私は庭に咲いていた白い花をたむけた。

私にできることは、それしかなかったから。(続く)

投稿 2年ぶりに里子訪問をしてきました

三林 けい子(新潟市在住の里親会員)



里子訪問

2014年、新潟にある「世界の恵まれない地域に学校を作る会」寄贈の「トントロラッチ小学校」の設立と同時に、「チームドラえもん」として6人の教育支援をスタートしました。3人は退学等で支援終了となり、現在3名を支援しております。

当時小学1年と2年生だった里子は中学2年、3年、高校1年となりました。久しぶりに会い、背が高くなり、成長したなあと嬉しく思いました。

いつもは自宅まで行き、家族と会って現況を見聞きしてくるのですが、今回は中学・高校の統一テストの日であったためゆっくりできず、学校でお別れしてきました。チームで最後の卒業まで、応援していきたいと思います。

校長先生が若い男性の先生に代わりました。そして3月27日に再訪し、いつもの運動会と卓球大会を開催することを、決めてきました。

みんなで学ぼうカンボジア語

第2回 マオピーナー?どこから来たの?

前回「タウナー?どこ行くの?」をお教えしましたが、似ているけど少々違うパターンもあります。「マオピーナー?どこから来たの?」です。

「マオ=来る」「ピー=から」「ナー=疑問文に着く言葉」です。答える時はタウナーと同様に「マオピー○○」と○○に場所などを入れれば良いです。

例えば「マオピージャポン=日本から来た」「マオピープテア=家から来た」「マオピートヴカー=仕事してきた」などです。

答えたい言葉がわからない時は指でも差して、あっちから来たとかボディランゲージをしてあげれば良いです。

私の持論ではボディランゲージで日常生活は可能なのですが、言葉が少し解るだけで相手の事も少し理解が深まります。カンボジアは遺跡より人間の方が興味深いです。

(青木貴之=カンボジア・光語学スクール総務)



光語学スクールの日本語授業

投稿 未来を生きる子どもたちの為に私達がすべきこと(4)

佐々木英介(東京都在住、里親会員)

人口問題への対策と支援活動(2)

前号にて、支援団体の責任に関して触れましたが、食糧支援をしている団体にも、教育支援を手掛けている団体も確かにあります。が、残念ながらそれらをセットにして行っているのではなく、個別のプロジェクトとして行われているようなのです。これでは問題の解決には至りません。

最貧国では、極度の貧困、食糧不安、不平等、高死亡率、高出生率が相互に関連して、負のスパイラルを引き起こしていますが、「世界人口白書2011」によると、「保健分野と教育分野への投資、特に女性と女兒の保健と教育に投資をして貧困を減らすことで、この悪循環は断ち切ることができる」、また、「女性の人權向上、特にそのために必要欠くべからざる女性への教育問題こそが、上記の要因の歯止めとなるキーポイントだ」と、世界の人口増加問題に携わっている多くの研究者たちによって、指摘されていることが記されています。

つまり、このことから導き出されるのは、救える命を救うことは大切ですが、それに併せて教育支援が行われない限り、事態の悪化を招くだけだということでしょう。

だからといって、幼い命を救うために寄付して下さる一般の方々までもが、そこまで考える必要はありません。これらは、直接現地で活動をする支援団体こそが、担うべき責任なのですから。

ただ心配なのは、後進国や途上国への支援に関わっている、国際的支援機関や団体は多く存在していますが、それらが配布するカタログやインターネットサイトでの記述を見る限り、殆どの団体のそれらの中に、命を救うことのできた子どもたちへの、今後生きていく為の長期的視野での環境づくり、中でも、教育支援へ向けて具体的に取り組んできている、活動内容や実績が見えてこないことです。

地球温暖化対策と併せて行う必要のあるこの人口問題への対策も、今後の上昇率を示すグラフを見る限り、時間の猶予などありません。

これらの、私たちが山積みしてしまった膨大な付けを、そのまま子孫に負わせてしまわないようにする為にも、今後、支援活動に関わっている私たち個人個人が現状を自覚し、可能な範囲でも努力を重ねていく必要を感じます。(おわり)



本会の会員状況をお知らせいたします (2022年2月末日現在)

●教育里親会員	210名
●個人会員	78名
●団体会員	10団体
●寄付協力者(随時)	63名
合 計	361名

書き損じハガキ・未使用切手 ・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



事務局便り

- 前々号で「お年玉募金」をお願いしたところ、2月末日現在で35名の皆様より401,200円のご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。活動資金の一助として使わせていただきます。
- このほど根岸理事長が、プノンペンにある「光語学スクールの日本語非常勤講師に就任いたしました。現地訪問の都度、ボランティアでカンボジアの子どもたちに日本語を教え、語学向上に資することができたら幸いです。
- コロナの沈静化とともにカンボジアの入国規制が緩和、原則ホテル隔離がなくなりましたが、ツアーを組んでの訪問旅行はもう少し先になる予定です。追って会報でご案内いたします。
- 里親として長きにわたり、子どもたちを教育支援してくれた勝然たみ子様(宮城県)が、昨年11月に病氣のため逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。

活動に参加しませんか

正会員として

■教育里親会員(年額3万円)

子どもたちへ直接払う年額

1万2千6百円(42%)

会の運営に回す年額

1万7千4百円(58%)

■個人会員(年額5千円)

■団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

* * * *

会費寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】

019支店 当座0160916

【りそな銀行】

練馬支店 普通4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート ～カンボジアがゴミの分別～

カンボジアがゴミの分別収集を始めました。まず、首都のプノンペンからで、プノンペン都庁は昨年11月から周知を始め、「ゴミを分別する」や「ゴミ捨て時間帯を守る」などの「新廃棄物規則」を守るよう、都民に呼び掛けていました。

コミュニティごとに600部の説明書を作成し、家庭に配布するために50万枚のパンフレットを印刷しました。しかし、住民の多くは守らない為、2月からゴミ分別、出し時間違反は罰金を科すことになりました。「罰金こそがルール徹底させる」王道です。

「新廃棄物規則」では1、湿った廃棄物(燃えないゴミ) 2、乾燥廃棄物(燃えるゴミ) 3、危険物の3分別。湿った廃棄物とは残飯、有機性廃棄物、果物、花等で黒いビニール袋に入れる事。乾燥廃棄物とは紙、紙ケース、プラスチック、スチール、ゴム製品、ボトル、缶等で白いビニールに入れる事。危険物とは刃物、ガラスの破片等で、破れない袋や箱などに収納する事となっています。

ゴミ収集会社は、正しく分別されたゴミのみを収集するとのこと。ゴミ出しは午後6時から9時までで、ゴミ収集会社は午後9時から朝まで収集するとなっています。

危険物は日曜日に収集です。ゴミ出しを指定時間外にすれば罰金です。いつでも、どこでもゴミ捨てが文化のカンボジアです。どうなることでしょう。(写真出展:Kmer Times)

里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)



分別ゴミ

ワットコフ小学校に椅子100脚寄贈

1月29日、根岸理事長が久しぶりにプノンペン市内の「ワットコフ小学校」(生徒数=200人)を表敬訪問したところ、校長先生から、セレモニーなどで使うプラスチック椅子寄贈の要望があった。

ワットコフ小学校は本会のツアーで必ず訪問する小学校、ツアー参加者との交流や、岩手県の小学校と絵画交流を行っている。椅子がないため、生徒たちは式典などの集会で立っていることが多いため改善してあげたいとのこと、2月2日に再訪問し椅子100脚を寄贈した。これで生徒たちは、暑い外での集まりでも座って集うことができるようになると、喜んでいた。



椅子を寄贈

オンライン里子訪問実施中です

カンボジアへの渡航が困難な昨今だが、Zoomによるオンラインでの里子訪問が奏功し、里親さんから好評を頂いている。1月～2月にかけて、4人の里親さんがオンラインで里子と交流することができた。

パソコン又はスマホをお持ちであればZoomは可能だが、初期操作さえクリアできたら、意外に簡単。挑戦してみたい里親さんは、事務局にご相談を。(☎03-3991-2854)



オンライン里子訪問

子どもたちの笑顔

写真提供:遠藤 啓 様

好評につき、今号も「子どもたちの笑顔」を掲載します。現地では新学期が始まり、元気な掛け声が教室に響いています。子どもたちに会える日もそう遠くありません。



本会が寄贈した井戸から水を出す子ども(写真提供:遠藤 啓様)

教育里親会員 入会申込書

年 月 日

氏名	ふりがな	生年月日	年	月	日
住所	〒	(TEL)			
備考	1. サポートして下さる子どもの人数 [] 人 2. サポートして下さる子どもの性別 ① 男の子 ② 女の子 ③ どちらでも 3. その他 [具体的に]				

*入会して下さる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。